



入舟地区コミュニティ協議会

「訃報」 田村幸夫氏を悼む

入舟地区コミュニティ協議会
鈴木 喬

入舟地区コミュニティ協議会会長田村幸夫さんが1月15日に逝去されました。謹んでご冥福を心からお祈り申し上げます。と共に田村さんとの思い出を述べて追悼の意を表したいと思えます。

田村さんは平成24年(2012年)に当会会長に就任され、これまでに中央区自治協の会長を歴任されるなど地域への功績は極めて大きく、その功績は今後も残り続け、当会の発展にも大きく寄与すると信じております。ご生前の功績を偲ぶため業績の一端を書かせていただき追悼とさせていただきます。



1. 学校統合

二つの中学校を柳都中学校に四つの小学校を日和山小学校に統合しました。教育環境の安定に寄与しました。



2012年 学校統合を提案

2. 北部コミセンの移転

老朽化していた建物から旧入舟小学校校舎に移転しました。同時に交番消防出張所・図書館等の関連施設も新築移転し、また中央健康センターも誘致しました。このことは地域活動の長期的な展望を可能とし、今後の発展を約束しました。



2019年 コミセン移転

3. 旧コミセン跡地の活用

区役所と協力し、旧コミセン跡地の売却を推進しました。地域住民の要望を確認し、跡地にスーパーの誘致に成功しました。これらにより住民の日常生活を安心なものとなりました。

それぞれ重要な案件は結論に至る過程で反対意見があり、一時混乱が生じましたが、適切に対応し、短期間に収拾しました。特に行政の関連部署と熱心に取り組まれたご尽力に心から敬意を表します。



2021年 スーパーを誘致

本当にありがとうございました。

発災当日の避難所状況について

緊急時に開設する避難所状況について、今一度皆さんも考えてみてください



入舟地区自主防災会
入舟地区コミュニティ協議会
副会長 高橋誠一



発災時、私と家族は弥彦にあり、すぐに帰路に向かいましたが運転中でも避難所運営の事が気になっておりました。様々な方々から電話をいただき今向かっていることを伝えましたが、このような時に地元になかったことに申し訳ない気持ちでいっぱいでした。

ようやく北部コミセンに到着したらすでに多くの方が部屋に入っており、毛布など資材も配布されていました。この時は当会役員の皆様の迅速かつ適切な対応と思ってました。

よくよく確認したところ一家族で一室独占、その影響で寒い廊下に孤立している方がいたり、入室禁止部屋に入っていたり、新潟市の資材が勝手に開封されたりしておりました。

後日役員で後片付けしたところ、サークルの私物や新潟市の資材の盗難が発覚しました。

これは発災まもなくコミセンに訪れた当会に関係ない方がコミセン施設管理者の言うことを聞かず、鍵管理室からすべての鍵を取り上げての勝手な判断行動による弊害です。

当会は最終避難所運営と部屋割り等マニュアル化しておりましたが、今回それが人目に触れず結果として役に立たなかったことを反省して、現在対策しているところです。

災害時は様々な事がありますが、皆様のご理解ご協力をお願いいたします。



新会員紹介

本会は赤坂町、西湊町通り周辺地区における優れた都市景観形成を推進し、将来にわたり、地域の特性を活かしたまちづくりに関する調査、研究、実地することを目的とする。

平成14年6月発足、同11月1日新潟市都市景観事業の認定を受け活動「下町景観の今昔物語」「清掃ウォーク」「人情市」等を経、平成18年「新潟下町・早川堀通りつつじ祭り」平成28年「しもまち早川堀通り☆キャンドルナイト」のスタート。これらを通し、地域の歴史や文化を知り、育み「住む街への豊かな希望」「若い人達が住みたいと思うまち」そして「住んでいる人達が心豊かに過ごせるまち」そんな「まちづくり」への実現を目指しております。



会長 高取サト子



令和6年能登半島地震関連

地区の被害について

令和6年1月1日午後4時10分能登半島地震発災に伴い、当地区でも被害が数か所見受けられます。すでに一ヶ月が過ぎましたが、未だ平常な生活に戻れな方もおられるとお聞きました。当地区で被災されました方々に心よりお見舞い申し上げます。

入舟地区自主防災会では各自治・町内会長に被害報告書の提出をお願いし、将来に役立つ資料として残していこうと考えこの度それをまとめ各自治・町内会長に開示します。その他意見・要望も含めまた将来起きるかもしれない震災時に少しでも役立ててれば幸いと思っております。

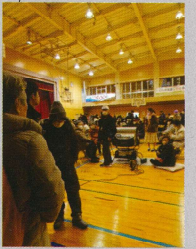
入舟地区自主防災会 会長 玉木幸一



柳都中学校避難所における活動紹介

地震発災後いち早く駆けつけた当自治会副会長夫妻は避難誘導から始めた。物資の配給にあたる際の声掛けと避難者への心配りは多くの協力申し出を引き出した。沢山の飲料水の入った重い箱運びから会場退出時の床掃除、机椅子運び、使用後の毛布等の回収まで中・高校生他有志の協力があつた。また暴発した掴み合いのいさかきも協力して止めた。反省点も含めた記録を残し、避難所に隣接する町内会として素早い対応をする心構えはこれからも変わらない。

窪田町1.2.3.4自治会 会長 熊谷哲秀



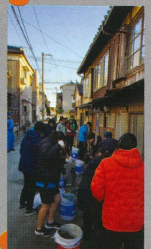
中学生ボランティア活動について

地震発災当初から当地域では道路陥没・液状化現象での泥の噴出があらちちらで起こりました。地元新潟柳都中学生教職員から申し出があり、地域にお手伝いすることがありましたら、お知らせくださいとの温かいお言葉をいただきましたので、早速各自治・町内会長にそのむねの文書を配布したところ数件の依頼がありました。

そして私ども有志と日程調整し生徒教職員約30人が泥出しボランティアに参加いただきました。このような状況下大変ありがたく、心より感謝申し上げます。依頼された町内会長も大変喜んでおりました。

地域と学校を繋ぐ絆を感じられた日でした。

日和山小・柳都中学校運営協議会 会長 高橋誠一

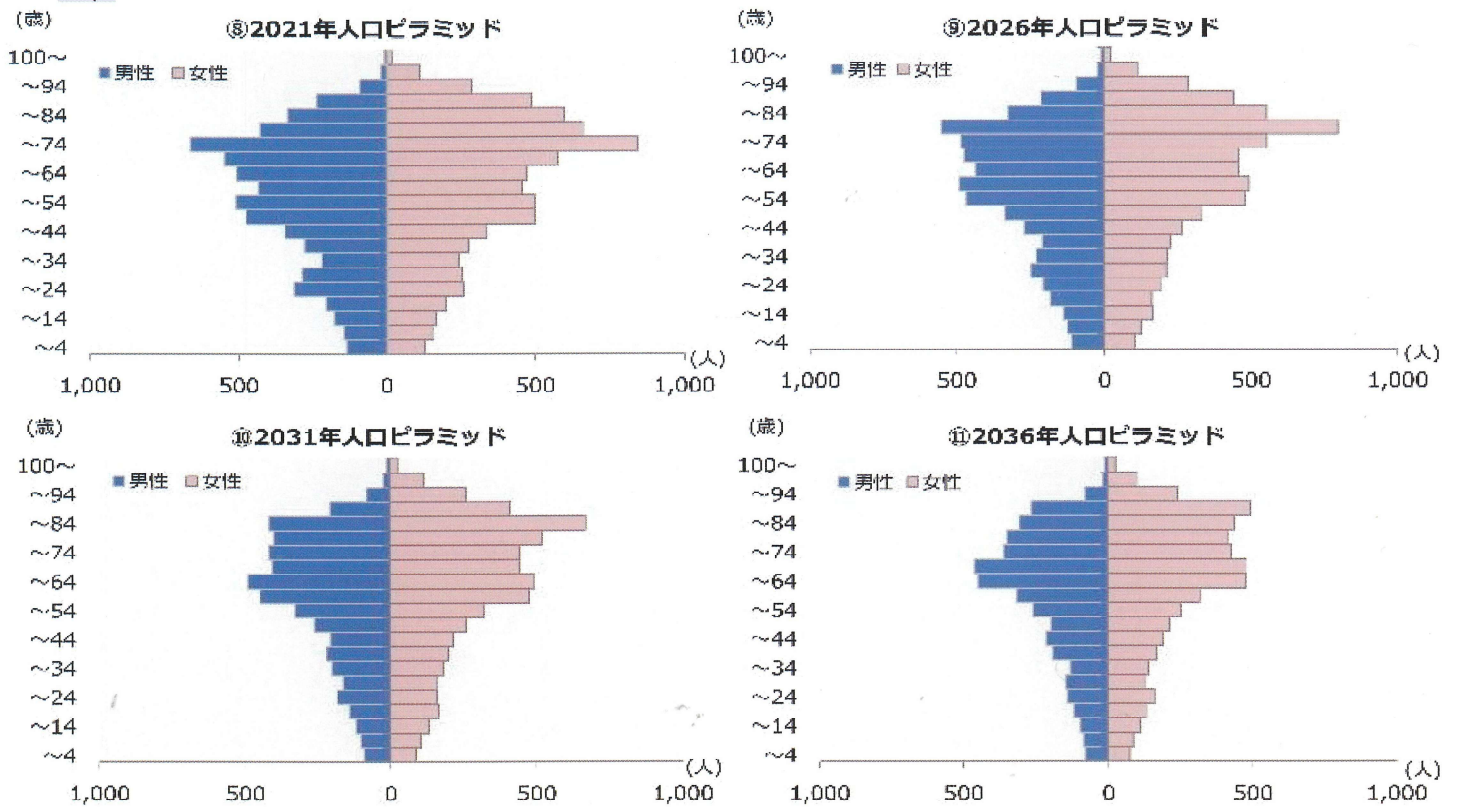




縮み行く地域 どうするコミ協! 変化に応じた持続可能な地域活動へ

総務部部長

宮尾 益史



人口は減り、高齢者の割合は増える、同じやり方ではできなくなる？

上の人口ピラミッドは、入舟地区、栄地区、湊地区、豊照地区4地区合計の人口推計です

- 人口は、2021年の13,889人から2036年には9,349人と32.7%減少する。
- 老年人口は、2021年の5,401人から減少していくが、老年人口割合は44.0%から47.8%に増加する。
- 年少人口は、2021年の910人から2036年には531人となり、41.6%減少する。

加速する人口減少、注目したいのは世代構成の変化です。主に地域活動を担ってきた65歳から74歳の割合は減り、75歳以上の後期高齢者が増えています。要支援、要介護者の割合や、高齢者の一人暮らし世帯も増加しています。

行政による住民サービスや災害対応なども、増え続けるニーズに全て対応していくことが難しい時代になってきています。

5年後、10年後、地域を支えてくれる人は何人いるでしょうか。人口が減少しても誰もが安心して暮らし続けるために、今のうちに活動の在り方や助け合いを本気で考える必要があります。

編集後記 総務部部長 宮尾益史

今年辰年。年初から地震・津波とジンス通り波乱の幕開けとなりました。加えて当コミ協では永年ご尽力いただいた田村前会長の突然の訃報に遭遇する事ともなりました。こんな時こそ、会員皆さん一人一人が地震のボランティアの時と同じように力を合わせて乗り切っていけば、後半は昇龍のごとく復活のチャンスが訪れることでしょう。